### 出席者(順不同)

第3種郵便物認可

全国修学旅行研究協会 理事長

正司氏 岩瀬

春茂登ホテルグループ 代表取締役

芳彦氏 根本

体験教育企画 代表

安良氏

越後田舎体験推進協議会 事務局長

小林美佐子氏

JTB 旅行事業本部教育旅行担当部長

向田 淳氏

近畿日本ツーリスト 営業統括本部販売部長

宏之氏

日本旅行 教育旅行部長

ったことを加味したプログラムを作

仲介する旅行会社には、

学校に対

る。ぜひ引き受ける側では、そういは考えられないことをいっぱいや

の指針などをとらまえて、地域に対 況にあるので、その間に入っているということがなかなかできない。 旅行会社がいろいろな情報を得て、 して体験プログラムをどう作ったら してさまざまな情報提供をしてほし 「ほんもの体験」という言葉を言い いかという指導を行っている。 教員が実際そこに行って見てく 私は学習指導要領や文科省

る

信

頼

係

切

小林氏

教育徹

藤澤氏

ロ グ ラ

4

体験(民泊)受入家庭手 そういったことから

を徹底するようにしている。 って、ネットワ という体験受け入れ地域の組織を作 -クの25団体にそれ

かりやる。 伝えとかないといけない。我々としう話を学校や旅行会社にもきちんと ら、受け入れ側では教育研修をしっ ては、「ほんもの体験ネットワー 伝えとかないといけない しっかりやっているとい 我々とし

理解しても

は力を借りて、捜索や救助を行って組合と連携して、何かあった場合に禅寺、湯元といった近くにある旅館

同組合の理事長を務めているが、

いる。 は力を借りて、 組合と連携して

くことが重要になる。

近畿日本ツーリストでは、

を組んで対応することを心がけてい

越後田舎体験は、海ちらえるようにしている。 あり、というところなのだが、昨年越後田舎体験は、海もあり、山も 先生が心配する食事や安全などにつ から信濃川のラフティング体験を体 いてうまく説明をして、

配するので、下見時には実際に乗る水場なので中学校の先生は非常に心 などの対応をしている。 などして、安全性を確かめてもらう 験メニューに加えた。コースは急激 なところのない安全なコースだが、 学校の体験活動では、 日光

するのが一番多い。最近はクマの出の場合には戦場ヶ原付近を自然散策 離。グループ活動で歩いていて、1被害が出たこともあった。また、遭 父兄が心配している。それから何年没が大変多くて、これはものすごく か前にスズメバチに襲われ、 大変な

千部なくなっているから、相当多のは1万軒を超えているが、もう製作した。日本で民泊を行ってい んでトラブルを起こした人は、冊子る。農家や漁師のおじさん、おばさ めにしようとなっては大変だ。だかトラブルが起きて、体験学習はや を見ないし、勉強会にも出ない人が る。こういうマニュアルを作って、のところに配布されたと考えて、 へれ地域に普及させる必要があ 相当多く

る。先生は体験学習のさまざまなパ ら体験型へと大きくシフトして

予想されるさま

った準備をすることが第一だ。

スクを考えて

それに見合

体験旅行を引き受ける側には、学

心配事をきちんと踏まえて準備

特に中学生は、常識で

る部分でご発言をいただきたい

昨今の修学旅行は見学型か

を実施する上での危機管理につ

職業体験プログラ

時に、民泊、ホームステイで学校の切だと思っている。まず実踏に来た した上で、この冊子を配っている。ている人に重要事項をしっかり説明 学校に対しては信頼関係が一番大 クの一つで、民泊を受け

泊を中心に行っている。藤澤さんのできるという部分が大きいので、民なぜ来てもらえるかというと民泊が なぜ来てらうそる。・・・・中高の約50団体を受け入れている。 織。今年で16年目になる。年間、になって受け入れを行っている 人々が一緒

るべきことを予測しながらリスクをなので、何があるか分からない。あある。あとは落石、転倒。自然の中 回避しているというのが実態だ。 いるのが行政との連

私は日光温泉旅館協 の基準を設けて、 る。基本的には安全確保や緊急対応 で契約して 施設に対して十 ス提供機関を選定するために、 における危機管理も含めた事項など 社として安全で良質なサービ

いる施設をご案内してい

学校に紹介してい

ことだ 大事なのは下見を含めた1年以上

ある打ち合わせの段階だ。学校にこ ちり話をしながら打ち合わせをする 実施の際には、 いうリスクの可能性があるときっ

可能性がある。 臨んだとしても、 の3者が綿密な連携を取ってタッグ れ旅行会社と学校と事業パー付けて、何かあった時には、 添乗員が知識を身に 万全の準備をして リスクが発生する われわ

校から目的地までのエリア、滞在しポイントは三つ。まず一つは、学 スマートフォンでも対応できる、つは、外部パートナーと連携して 速な対応の一つとして、 方で危機管理体制を整えている。 急救命講習を修了している。 きる体制を整えているという全社連 いるエリアで社員がすぐに対応で 二つ目が、起こったことへの迅 全社員が救 もう

> 洗い出しをして、それぞれのリスク いうリスクがあるのかを洗いざらい

き地図を見て歩きやする

い。各先生が

今生徒がその地図の中でどこの位置

いるのかがきちんと分かるように

という機能だ。

生徒が班別行動のと

と、そのプランが地図の上に表れる 使って班別行動のプランを作成する の安全対策を取り出せる機能が 中に入れて、先生が自由に修学旅行

もう一つは、生徒がシステムを

あるから、それを事前にシステムのち合わせの中でいろいろやりとりが

を作っている。これは、先生との

(いーなび) というシステム

われわれも昨年から「Eっ

直江

の対処方法について事例集を含め

を作っている。この三つでゾ 位置情報を確認できる情報システム

ィフェンス体制をとっている。

体験型学習にお

十分な調査を行った上選定するために、利用 Tゾーンディフェンス」という呼び

# 心震·火事など がいる。この全社員の中で、るが、ここに約960人の

できることが重要になってくる。年 当者がきちんとそれに沿った対応が

対するきちんとした社員の対応が最災が想定されるので、そのリスクに

班別行動以外の時でも、地震や震

終的には重要だ。

併せて保険の提案

向田

JTBでもシステム的な部

施」の三つの段階がある。提案段階

実

の営業本部で教育旅行を手掛けてい 四つの地域会社と近ツー本体の四つ

人の営業マン

その情報を先生たちに提供して理解

もしている。

自分のいる場所から

してもらうことが必要だ。

番最寄りの避難場所がどこにあるか

まずはわれわれ社内の教育旅行担

も分かる。

て内容を取りまとめて、最終的には

大きく分けて「提案」

こく分けて「提案」「下見を職業体験での危機管理に

# マホで支援体制三姓氏 ツ プを学校 岩瀬氏

三好氏

小林氏

も通話ができるIPフォンを備えた トフォンで、有事の際には職

> どれぐらい時間がかかるという目安 場所や、どこからどこまで歩いたら

といったことが記されている。

いるかが確実に分かる。生徒の安全員が持つタブレットで生徒がどこに 位置情報システムと、万が一の際に 話した、災害の支援システムを構築 している。これは、 GPSを使った

応が書いてある。

地図には広域避難

合・移動について何かあった時の対 当ての方法、災害時の連絡方法、

の際の対応ということでは、先程も三好 地震や火事発生時など有事 応が求められてくるのではないか。本大震災を教訓に、より近代的な対 らある危機管理のテーマだが、東日

携が重要になってくる。 善の方法を選択できるのかという連 研修を作っている。 かなければならない。ただ、その時 きるようなシステムは当然作って になった時に、GPSなどで確認では、例えば森の中で生徒が行方不明 間で約15コースくらいの社員向けの には、どれだけわれわれと現地の 行政の方々、警察を含めて、 地震や火事への備えは、昔か われわれとして 最

主行動の際には班に スマ トフォンを使った危機

もあり、 る。状況別対応マニュアル、応急対応マニュアル」を作って配って、 修学旅行班別自主行動用の ステムが万一機能しなくなるリスク 察、消防などに電話ができる。 何かあった時には本部の先生や警 の機能もあり、通常の電話が通じな 管理の対応を行っている。IP電話 いリスクにも対応している。班別自 とは言え、電源や電波の関係でシ 東京、 京都では紙ベースの 台持たせて、

急の避難場所 全国修学旅行研究協会 それと生徒の

岩瀬氏

正畿ヨ本ツーリスト協定旅館ホテルまた、災害時の避難場所として、ている。 「修学旅行

連盟・ホテル連絡会と協力をし、 中心に進めている。 **りず多ハとハう理由で東京、京都を駆け込み寺のようなものだ。班別行旅館・エジノーデー** 旅館・ホテルに避難できる、生徒の を作った。これは有事の際、近くの 0番」という仕組み

校にはこれが持ち込まれていると思っている。 旅行ができないのが現状だ。

## 座談会

会を開催した。修学旅行中に起こりうる危機はさまざまあるが、いただき「修学旅行の危機管理を考える」をテーマにした座談 生徒の安心、安全をどう確保するかも重要だ。そこで今回、:をいかに企画するかということも大切だが、併せて、旅行中 その中でも「体験型学習時の事故対策」「地震・火災発生時の避 行会社の教育旅行担当者や受け入れ地域の関係者らに集まって きな行事。学校としては、校外学習ならではの教育プログラム・中学校の修学旅行は、生徒にとって一生の思い出にもなる大 対策」の三つをテーマにとらえた。

策・危機管理マニュアル」を1万部 行政と民間施設と地域

藤澤氏

#### 中学校の修学旅行のおかれている現状

全国修学旅行研究協会 理事長 岩瀬正司

元々は中学校の教員出身で、2010年の春に世田谷の尾 山台中学校の校長を最後に退職した。私の教員としての 経験、あるいは教頭、校長としての経験から、中学校の 修学旅行の現状を考えた時にさまざまな課題があると捉

一つ目は教育課程を作る上での課題だ。今、子供たち の学力はどうなのかとすごく言われており、文部科学省 も子供たちの学力を高めようといろいろな手を打ってい 学校は勉強をする場であるので、それはそれでいい のだが、それ以外の活動はどうかというと、学力向上の ために隠されてしまっている部分がある。授業にかける 時間は増えるけれども、それ以外の時間が減ってくる。 特別活動の修学旅行に今までのように時間がかけられな い。時間がかけられないと、教員、学校はあまり冒険を しないので、前例踏襲になっていく。新しい修学旅行を 開拓する意気や試みがだんだんなくなってくる。

もう一つは、学校を取り巻く、特に教員の問題。今、 団塊世代の教員がどんどん辞めていて、世代交代がとて も激しく起こっている。今まではどの学校にもバランス よく、若い先生、中堅の先生、ベテランの先生がいたの だが、ベテランがどんどんいなくなって、若い先生ばか りになってくる。そうすると、今までのように「修学旅 行はあの先生に任せておけば大丈夫だ」という先生がい なくなる。そうなると、どうしても若い先生が企画をせ ざるをえない。そうするとモデルがあまりないから、や はり「去年のままでいい」と新しい冒険をしなくなるの ではないか。

さらには、私たちの時代の昔は、修学旅行の実踏など も2人で、2泊3日で、というのが常識だった。ところ が今は地方自治体の非常に財政の厳しいところがあるか 「毎年同じ所に行くのになぜ2人で2泊3日も行く んだ」という締めつけがある。

私が最後に過ごした世田谷区の場合は「1泊2日にし ろ」と。どうしても2泊3日で行きたいのなら「1人で 行け」と。私は校長として抵抗して最後まで2泊3日で やらせたがかなり苦労をした。

そういうような状況で、新しい修学旅行を求めていく という姿勢がだんだんと学校に欠けてきてしまってい る。勢い前例踏襲といった流れになっていく。

もう一つは社会全体の価値観の多様化。いろんな価値 観を社会全体が持っているし、それがもろに学校に持ち 込まれてくる。今までのような指導の仕方、準備の仕方、 運営の仕方では、何をやっても保護者からクレームがつ く。子供たちが不平を言う。そういうような、社会の縮 図が学校に即持ち込まれているので、これまた修学旅行 を実施するうえでさまざまな困難がきている。特に中学

その一つの極端な例が危機管理だ。私が現役の頃に危 機管理と言ったら、「現地で交通事故に気を付けよう」、 それから「宿の火災に気を付けよう」「食中毒に気を付 「他校とのトラブルに気を付けよう」、そんな 指で数えられるくらいのことに対応していればよかった のだが、今は数えられない。危機対応を考えないと修学